

会 議 議 事 録 (抄)

会 議 名	専門学校東京テクニカルカレッジ 第二回 建築・インテリア系教育課程編成委員会	
開 催 日 時	令和元年 11 月 22 日 (金) 15 時 00 分～17 時 00 分	
会 場	専門学校東京テクニカルカレッジ 地下 1 階 テラホール、11 階 1101 教室	
参 加 者	外部委員：4 名	内部委員・学内関係者：4 名
	＜外部委員：4 名＞ (順不同・敬称略、役職は委員名簿参照) 大塚雄二 (公益社団法人建築家協会 大塚雄二都市建築設計事務所) 霜野隆 (一般社団法人 日本インテリアプランナー協会) 樋口修 (株式会社ヒグチ設計／東京商工会議所中野支部) 荻野敦 (清水建設株式会社 東京支店 施工図センター 第 1 施設グループ) ＜内部委員：4 名＞ 杉本安雄 (専門学校 東京テクニカルカレッジ 建築監督科科长) 野上和裕 (同 建築科科长、議長) 鈴木昇 (同 建築科夜間(建築士専科) 科长) 高山寿一郎 (同 インテリア科科长、書記)	
会 議 録	＜第一部 系別分科会＞ 15:00～15:30 B1F テラホール 1. 校長挨拶 専門学校東京テクニカルカレッジ校長 白井雅哲 2. 委員のご紹介 3. 令和元年度事業計画進捗状況報告 ①～③募集・教育・就職活動に関する報告 ④わかる目標・出来る目標の展開に関する報告 ⑤学習成果の見える化に関する報告 ⑥リアルジョブプロジェクトに関する報告 ⑦海外研修特別プログラムに関する報告 ⑧高等教育機関の負担軽減制度に関する報告 ⑨専門人材育成訓練等に関する報告 ＜第二部 系別分科会＞15:40～17:00 1101 教室 1. 議長挨拶 (野上) 2. 前回 (系別分科会) 議事録の確認 (高山) 3. 意見交換 配布資料：ディプロマポリシー、履修時間表、カリキュラムフロー、シラバス 各科の 2020 年度のカリキュラム等を作成させていただいた。これに関してご意見を頂戴したい。(野上) 建築監督科 現在、建築監督科の各授業の中身を作り変えている。今回の資料には、2 期までの内容が反映されている。(杉本) 4 期には、企業様に 6 週間で 6 講座の授業を受け持って頂いている。前回の議事録の中にあつた「コストには、これありきというのはなくて常に流れていくもので、マーケットの状況によって違う」などを前田建設工業様の中山委員からお話を頂いた。 他には日本住宅様にも授業をおこなってもらっている。 建築監督科の授業の中では現場に出かけることがあるのか。(樋口委員) 建設現場の長期間のインターンシップは難しい。企業様の企画に則った 1 DAY のインターンシップや、学生 2～3 名で清水建設様や水沢工務店様で 1 週間現場を見させて頂くことは実施している。(杉本)	

	現場に行っても十分に知識を吸収するのが難しい。現場に入ってイメージを持つことが重要。学んでいくときに役に立つと思う。何時間でもいいので現場を見ることは重要なことだと思う。(大塚委員) たった一週間のインターンシップだったが、学生が現場に愛着を持つようになっていた。現場はインパクトがあると思った。現場の見学に行くだけでも、学生の保険などを掛けないといけないので、企業様も準備が大変だと思う。(杉本) 長野研修時に、信濃美術館の改修工事の現場の見学をお願いしたことがある。企業様から安全面でどこまで配慮してもらえるのか、学生が保険に入ってくるのか、学生人数分のヘルメットを自分たちで用意してほしいなどの要求があり断念した。(野上) 現場の見学は選抜になってしまう。その為、インターンシップを単位のある科目にできない。(杉本) 会社の中で教育に携わっているが、インターンシップは若い人に建設業に就いてもらう為には欠かせない活動だと思っている。(荻野委員) 町場の工務店なども、インターンシップの条件が厳しいのか。(霜野委員) 卒業生が3月頃に就職活動の延長で現場を見せてもらうが、会社でレクチャーを受けたうえで現場を見せてもらう。人数としては2、3名もしくは個別での対応になっている。(野上) 少しでも現場に入り込んで監督の仕事を見させて頂く経験はとても重要だと思う。(鈴木) 現場見学での誓約書はあるのか。(霜野) 現場によって違う。そのような例は少ない。(杉本) 建築監督科は他の学校にはあるのか。(樋口委員) 他の学校にはない。3、4年生のカリキュラムは、清水建設様、前田建設工業様にお手伝い頂いた監督に特化したカリキュラムになっている。(杉本) 建築科カリキュラムの説明 シラバスは2018年に作成したもの。現2年生が新しいカリキュラムになって初年度になる。春まで授業をおこなうことにより全カリキュラムが一新される形になる。2年生のカリキュラムの変更点は、立体造形実習の科目名を製図実習に変更。4期以降の内容は卒業制作の作業時間にしている。また、積算などの授業の実施を5期に置き、4期2週目まで実施していた2級施工管理技士の対策講座が終わった後、4期の3週目から以前5期に実施していた2級建築士講座をつなぐことができ、2級施工管理技士から2級建築士(以後2級)の資格講座にうまくシフトすることができている。今年も1年生は12月に2級建築士製図の模擬試験(喫茶店の併用住宅)をおこなう。(野上) 建築科夜間 建築科夜間は特にカリキュラムの変更はない。(鈴木) インテリア科 卒業設計は、2年前まで商業施設の計画をさせていた。インテリア科の就職先としてハウスメーカーに勤める学生が多いので、2年生の3期まで計画していた住宅を残しつつ、昨年からは店舗併用住宅の計画を複数人で実施している。(高山) 建築科では喫茶店の併用住宅、インテリア科では店舗併用住宅という話が出ていたが、喫茶
--	---

店の併用住宅などは世の中にあまりない。個人事業主の施設を計画することは、住宅、暮らし、商業と結びつけることは非常にいいことだと思うが、これからこのような計画を学生が学ぶ題材として必要なのか念頭に置いたほうがいいと思う。(大塚委員)

建築科では、2級の過去問題で2世帯住宅、喫茶店併用住宅、事務所併用住宅と併用住宅のネタとして喫茶店をおこなっている。最近製図の試験で棒矩ではなく、部分詳細に変わっていたりと年々傾向が変わってきている。それらに対応できるように古い過去問題ではなく変えていく必要が感じられる。

改正建築士法の施行に関して

改正前は、実務経験を満たしてから受験可能。大学4年を卒業した後、2年間の実務を経て受験可能。改正後は大学の場合、先に試験を受験し合格した後、2年間の実務を経て登録。今までの認可の状況で変わってくる。建築監督科は卒業後2年間の実務を経て受験が可能。建築科、建築科夜間は卒業後4年の実務を経て受験可能。1級建築士（以後1級）建築士受験に関しては3学科が対象学科になる。卒業と同時に1級の受験ができるようになる。建築科に関しては、今まで作成してきたカリキュラムが2級に特化したものとなっているので、まず2級を取得させ、その後1級にチャレンジさせたい。(野上)

建築科夜間の学生は、18歳から60歳以上の方まで、学歴も国立大学出身者や偏差値の高い大学の出身者がおり、受験勉強が得意な方が何人もいるので、1、2人合格者が出ると思う。合格者が始まってしまうと、初めから当然1級を狙ってしかるべきだと思う。1年生でも在学中に資格学校に申し込みをしている学生も出てきている。今年の入学生から夜間では少しずつ授業資料を変えながら1級の対応をしていると話をしている。企業様側では今年入社する社員の教育をどのような形でおこなっていくのか、委員の方からお考えをお聞きたいと思う。(鈴木)

今後は4年間勉強した後、1年間塾みたいなコースを作って1級を合格させ、アドバンテージを持った状態で就職活動をさせる学校が出てくると思う。(杉本)

学生からすると1級が受けられるなら、2級より始めから1級から受験をしたいと思う。(大塚委員)

建築科夜間の学生さんは、学校でどこまで1級の対応してくれるのかを聞いてくるので無視はできない。(鈴木)

1級を使う仕事と、2級を使う仕事で考えれば、明らかに2級の方が範囲としては実用性が高い。(大塚委員)

1級の合格率は12～13%、2級は45～50%近い。いきなり1級をチャレンジするのは難しい。1級を受験するなら2級も一緒に受験をすると良い。(霜野委員)

昔は1級が10%くらいだったが、かなり増やす意識があるのか。(大塚委員)

正式に回答はないが10%の時は、人口、受験者が多かった。(霜野委員)

何を目的で1級の制度を変えたのか大本を知っていないと見誤ると思う。(大塚委員)

現在の1級の取得者は20万人程で、その半分は建築の仕事をしていない。実際1級の需要そのものは10万人仕事をしている方がいるかどうかだと思う。(杉本)

建設会社では、1級の取得に関してどのような形をとっているのか。(大塚委員)

清水建設では、1級を推進している。(荻野委員)

1級施工管理技士は先輩のOJTで3年もあるのだから取得できないはずがない。しかし、建築士はOJTだけでは難しく、会社も積極的にバックアップしているという話を聞く。(杉本)

現実的に現場で働きながら1級を受験するのは難しい。この制度(改正建築士法)は悪くないと思う。(霜野委員)

1級はOJTでは無理だと思う。ちょうど卒業して4年とか、6年という期間の中堅が一番忙しい時期になるので資格取得が難しくなる。政府は言わないが、若い人を増やしたいのだと思う。(荻野委員)

資格学校に通う段取りをしても、仕事が忙しくなって通えなくなってしまうのが現実。建築科夜間の場合は転職組の方も多く、大手の建設会社で正社員になる為には、1級を取得しないとよく言われると聞く。その方たちにとってもチャンスだと思う。(鈴木)

1級の学科だけでも受かっておけば、5年間(学科合格後4年目までの内2回の受験が可能)の製図試験の有効期間がある。(霜野委員)

建築科夜間の場合は1級、2級を取得したい学生が混在するという事か。(荻野委員)

住宅中心の仕事のする方は2級を取得したい方、2級は取得しないという方もいる。教える内容は急に大きく変わることはないが、密度を上げていかないといけないと思っている。(鈴木)

建築科の場合は、1級受験の認定はあるが授業科目を増やしていかないと対応ができない。(野上)

1級の対応をしておかないと、これからこの学校に入学する学生に選ばれない。入学後、1級、2級を選べるシステムがないと、2級を取得したい学生も来なくなってしまうと思う。(大塚委員)

1級の合格者が出たら、学校毎に1級に対応していると謳い始めると思う。学校全体としては、1級も対応できるということも謳わないと見向きもされない。(鈴木)

2級の為のカリキュラムは現状のままで、1級を取得したい学生は選択で講義を取っていくシステムができれば良いと思う。1級のカリキュラムは作らないといけないと思う。(大塚委員)

4. 次回日程(議長)

- ・令和元年度卒業研究・卒業制作およびRJP学習成果発表成果発表会
令和2年3月12日(木)14時00分～17時00分
各科学生成果発表の評価者として参加をお願いいたします。

5. 閉式の挨拶(議長)

以上

